

令和7年度 すぎと町民大学 第13回 「古典への扉②」

令和7年11月15日(土)に、杉戸町役場において【古典への扉② 昔ばなしを古文で読んでみよう】をテーマとした講座を開きました。

講師は「古典への扉①」で御指導いただきました、元国語科高校教師の島田親^{しんきょう}亨先生です。今回は教材として「竹取物語」の原文を使用し、現代語訳に変換しながら読み解いていきました。「竹取物語」は、平安時代前期に成立した日本の物語で、「現存する日本最古の物語」とされています。

学生からは、「竹取物語を読み解きながら、当時の時代背景を想像することができました」といった声や、「主人公を『かぐや姫』から『かぐや姫を育てる翁夫妻』に視点を変えて読み深めることで、今までと違った竹取物語を想像することが見えてきました」といった感想が寄せられました。

また、休憩時間には島田先生の御指導で、折り紙の人形作りにも挑戦しました。指先を使う繊細な作業で、なかなか難しい課題でしたが、頭と指の体操にもなる楽しいひと時となりました。

先生の話に耳を傾ける学生



翁夫妻に視点を当てた学生



折り紙で人形が出来た学生

